

## 第4回アジア精神医学会世界大会 (The Fourth World Congress of Asian Psychiatry) 報告記

白坂 知彦<sup>1,2)</sup>, Woraphat Ratta-apha<sup>3,4)</sup>

<索引用語>: 学会報告, アジア精神医学会, インターネット依存>

<Keywords>: WCAP, AFPA, internet addiction>

2013年8月20~23日, タイ・バンコクで開催された第4回アジア精神医学会世界大会 (The Fourth World Congress of Asian Psychiatry: The 4th WCAP) に参加する機会を得たのでここに報告する。本会は, アジア精神医学会 (Asian Federation of Psychiatric Associations: AFPA) が2年に1度開催する総会で, 2007年8月2~5日にインド・ゴアで第1回大会が開催され, 今回で4度目の開催であった。

今回は, AFPA (理事長・新福尚隆・神戸大学名誉教授) とタイ保健省精神衛生部 (Wachira Pengjuntr 局長), タイ精神医学会 (Psychiatric Association of Thailand; Yougyud Wongpiromsarn 会長), タイ老年精神医学会 (Thai Society for Geriatric Psychiatry and Neuropsychiatry; Pichet Udomratn 会長) の共同開催でアジアのほとんどの国々の精神医学会の支援のもとで開催された。日本からは Organizing Committee として武田雅俊教授, 秋山剛先生らが参加するなど総勢16名の日本人が同学会で交流を深めた。“Asian Collaboration for the Betterment of Mental Health” をメインテーマに掲げ, アジアの精神科医療従事者が集い, 情報共有や交流を通してアジ

アの精神医療の向上を目指すものであり, 今回は東アジア, ASEAN 諸国, 南アジアを中心に, 43カ国から1,271名を超える参加者が集まる大変盛況な会であった。開催地であるバンコクは, 北緯13度と亜熱帯に位置する。気温は35°Cを超え, 学会同様, 熱気あふれるもとの滞在であった。

学会全体を通して, 従来の欧米諸国主導の精神医学を受動的な姿勢で受け入れるばかりではなく, アジアの独自性や自主性を世界にアピールしていこうとする気勢にあふれ, 非常に盛況な会であった。基調講演は, 世界規模での精神神経領域の政策・指針, 老年期疾患に対する早期発見, 早期治療にかかわる提言, アジアばかりではなく世界的な問題となっている児童思春期患者に関する保健施策など, いずれも興味深い話題であった。また, 一般演題も, 統合失調症や気分障害はもとより, 心理療法, 児童思春期精神医学, 多文化間精神医学, 薬物乱用依存, 神経精神薬理学, 疫学調査, 精神保健制度に関する発表など, 様々な分野からの発表があり, 活発な質疑応答が行われた。日本からも多くの参加があった。そのテーマも, 認知症, 児童思春期精神医学, 自殺予防, 電気けいれん療法 (ECT), うつ病, 依存症, 統合失調症など多岐にわたっていた。

今回, 白坂は, Mahidol 大学 Sirichai Hongsgansri 教授のオーガナイズによるシンポジウム「Addiction Psychiatry: from alcohol to game addiction in Asia (アジアにおけるアディクション問題: アルコール依存からゲーム依存まで)」に, タイ Somdet Choapraya 大学 Boonsiri Junsirirongkol 先生, インド SRM 大学 Thirunavukarasu Manickan 先生, タイ Mahidol 大学 Chanvit Pornnoppadol 先生, 韓国ソウル大学の Jung-Seo Choi 先生らとともにシンポジストとして参加

著者所属: 1) 手稲溪仁会病院精神保健科, 2) 日本若手精神科医の会, 3) 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野,

4) Department of Psychiatry, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University

受理日: 2014年5月22日

した。そこで、「Introduction of Internet Addiction in Asia」と題して、近年注目を集めるインターネットの問題使用についてアジア諸国での状況と日本国内との比較、課題などを報告した。

インターネットの普及に伴い問題使用者は271万人と推定され、社会的な問題となっている。なかでも中高生、大学生に多く、推定70万人ともいわれるひきこもりの大きな原因となっていることなどを紹介した。この発表を通してインターネット依存の問題はアジア全体で憂慮すべき事態に至っていること、韓国、タイなどは国家的なプロジェクトを通して早期発見、治療プログラムが試みられているなか、日本でもより抜本的な取り組みが求められていることなどを痛感した。これらの交流を通して世界的な視野での日本の現状を改めて認識し、国際学会に参加する意義を強く実感した。また国や環境、文化が異なっているにもかかわらず、共通する問題に対して根本的な理解や認識を得ることができると実感し、世界に向けて発信することの面白さや重要性を強く認識した。

また Woraphat Ratta-apha は「BDNF immunoreactivity study in postmortem brain and association study of BDNF with completed suicide in the Japanese population」と題した発表を行った。脳由来神経栄養因子 (brain-derived neurotrophic factor: BDNF) は神経可塑性、発達など神経ネッ

トワーク構築に重要な役割を果たすとともに、うつ病などをはじめとした様々な精神疾患との関連性が指摘されている。今回は自殺者脳サンプルを用いてBDNFと関連する遺伝子発現について検討、考察を行った。日本-タイ間の基礎共同研究の礎の1つとして、他のアジア諸国からも注目をされる発表となった。

白坂は、NPO 法人日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrist Organization: JYPO; <http://jypo.org>) に所属している。この会は、世界精神医学会と日本精神神経学会の協賛を得て、研究および活動を通じて国際的に活躍できる精神科医の育成に寄与し、精神科医療の発展に貢献することを目的として2002年5月に設立された。この会に所属し情報を共有することで、海外の精神科医と良好な関係を構築する一助となり大変有益であった。

次回は2015年3月3~6日、日本・福岡で第5回大会 (大会長・九州大学神庭重信教授) が開催される予定である。次回はさらに参加者が増え、アジア全体のネットワークが強化され、有益な情報交換の場としてさらなる発展がなされることを期待する。

なお、本論文に関連して開示すべき利益相反はない。